【グループワーク（Aグループ）】

（コーディネーター 伊藤 氏）

・「新嵐山スカイパーク自分ごと化会議からの提案素案」について、気づいた点から発言を頂き議論を進めたいと思います。

（委員１）

・今回の提案書には、会議に参加した委員の意見が盛り込まれているので良いと思う。町の考えについては説明があったが、最終的な決定権は議会にあるのか。議会はどのように考えているのか。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・会議の中で提案内容が固まって、決定する。その提案書を町（町長）に渡す。町は提案内容を踏まえ、活用計画を見直す。ここまでは議会の議決をしなければいけないというものではない。

　見直し後の活用計画については、議会への説明もあると思うが、見直し後に提案される予算に関しては、議会で決定されることになる。

（委員２）

・提案１について、「住民が運営側に回る」という表現は、観光メインの印象が強くて、住民は来た人がどうしたら喜んでくれるかを考えようというイメージに誤解されると思う。以降に記載のある「当事者として関わってもらう」という表現の方が町民も楽しめることも含まれ、全体をもう少し広く捉えられると思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・前回までの議論を踏まえての記述であり、小菅村のようなケースであれば住民が運営側に回るというのも考えられる。これについては、外から来る人を呼び込むという視点だけではなく、町民がもっと新嵐山のことに関わっていくことが大切であるという視点である。

（委員３）

・農村部の学校は、冬にスキー学習がある。市街地の学校では、雪を楽しむ、雪に触れる遊びといった学校行事がない。子どもが冬の新嵐山でアクティビティを楽しむ機会があると良い。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・提案２に関することであるが、具体的には、スキー学習などが一番馴染みやすいのか。授業で行くのが良いのか。

（委員３）

・スキーは道具にお金がかかるので、自転車やそり遊びでも良いと思う。自発的に行けない子もいると思うので、授業で行くのが良い。

（委員１）

・学校の授業だけでなく、部活動や合宿の受け入れも検討してはどうか。

（委員４）

・大学で施設運営を学ぶゼミがある。例えば、学生をターゲットにゼミを新嵐山で受け入れるというもの良いのではないか。

（委員５）

・いまの新嵐山で感じることは、施設の老朽化。その部分を早急に何とかしなければならないと思う。頑張っている部分と手を付けていない部分の差が大きい。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・提案４で、宿泊施設のリニューアル（老朽化施設の改修）を記載している。施設の寂れた感を無くす。その代表的な施設が宿泊施設ということである。

（委員１）

・経営状況のこともある。新嵐山スカイパークのあり方を示すビジョンを明確にすべきと思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・持続可能な施設にするためには、一定の投資は必要という考えである。寂れた感を無くすには最初にどうしても投資が必要となる。ただし、何でもかんでもお金をかけるというのではなく、例えば、数値目標を掲げ、それに向けては、これだけの投資が必要になるということである。

（委員４）

・リニューアルの資金として、ネーミングライツの販売は可能なのか。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・制度的には、出来ることである。近郊では帯広市総合体育館などがある。

（委員２）

・提案２について、「子どもの見守り」や「ボランティア」というワードが気になる。外の施設は、様々なリスクを伴うものである。ボランティアを安易に受け入れることは、ボランティア自身のスキルの問題もある。自分自身も子どもたちと森の中で遊ぶイベント運営に関わっており、リスクマネジメントの面でかなり高度な部分を問われるので、提案書として安易に出すべきではないと思う。ただし、学校の授業で体験プログラムの一環としてボランティアに指導をお願いするというイメージであれば良い。

・新嵐山に家族で来られているのであれば、預かりではなく、家族で楽しむという趣向が良いと思う。

（委員６）

・提案１にある「日本で一番寒いスキー場」ではないと思う。晴天率は一番ではないか。

・町内の公共施設で火を使う事業は実施しづらい。新嵐山で出来るのであれば検討してほしい。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・「最も晴天の多いスキー場」や「たき火」をキーワードにできないか。

（委員７）

・昔、展望台にお天気カメラが付いていたので、また設置されると良いと思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・以前、実施していた天空カフェはどうであったか。

（委員３）

・メニューも限られており、それほど魅力は感じなかった。展望台でゆっくり景色を眺める時間がなかった。

（委員２）

・普段は展望台まで車で行けるが、天空カフェでは麓に集合し、バスで上がった。完全予約制のため、時間も行動も制限された。

（委員５）

・夏にリフトを活用し、展望台に行くのはどうか。乗降だけでも楽しいと思うし、放牧した牛を見ることもできる。

（委員１）

・360度見渡せる展望台は、他にないと思う。本州から来たお客さんを案内することもある。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・実際に新嵐山展望台からの風景を見たことがあるが、30分過ごしても飽きない魅力があり、素晴らしい価値である。

（委員５）

・案内看板もなく、知らない、わかりづらいという意見を聞く。

（委員７）

・道幅が狭いので、通行量が増えると心配である。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・放牧した牛が見られるという話で思い出したが、千葉県のマザー牧場に行った際、普通に牛が見られて、感動した。住んでいる人たちにとって当たり前の景色が外の人にとっては違うことと実感する部分である。

（委員２）

・提案４で、ドッグランの有料化について、過去にパークゴルフ場を有料化したことで利用者が遠ざかった例もあるので、現在人気のドッグランは無料のままとし、利用者にどのようにお金を落としてもらえるかを考えた方が良いと思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・犬を呼び水とした集客はできないか。新嵐山にもドッグランがあるが、ペットと一緒に楽しむアクティビティが少ないと感じる。

（委員５）

・ドッグランに限らず、自然資源を活かしながら、人と犬が一緒に遊べる仕組み、場所があればもっと良いと思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・夏であれば、フォレストテラスでペットと一緒にバーベキューはできるが、冬はない。

（委員６）

・町内にドッグランのあるカフェがある。新嵐山にも犬用のメニューがあれば良い。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・新嵐山のドッグランにこれほど多くの人が犬を連れて来ることに驚いている。

・どこまで犬に特化するかは、個人の価値観が入ってくるので、これについては意見提案シートに記して頂ければと思う。

（委員４）

・犬の障害物走を実施し、企業から協賛いただくのはどうか。

（委員２）

・池の活用はどうなっているのか。

（町担当）

・冬は利用（人工降雪）しているが、夏は特段利用していない。今後、利活用を検討する。

（委員２）

・夏のシーズン、スキーゲレンデは牧草地として電牧柵を張っているが、どこか一部でも電牧柵を張らずに人が山を楽しめる、放牧地でない部分を残しても良いのではないか。昔、ゲレンデでパラグライダーをやっていた方もいたと思う。

・この会議に参加する前は、新嵐山が観光寄りに向かっていることが気になっていた。それに関して、町民から不満の声も聞こえてきた。しかし、この会議に参加し、利用した方からの声を聞く中で、利用者は満足していることを知った。その上で、こうした町のやり方を批判すべきではないと感じ、自分としては納得した。

・新たな方向性を決めて進めるにしても、会議に参加した自分たちは理解できるが、他の町民はわからず、不満が出るという同じ流れになると思う。町が進む方向は、間違っていないと思うので、新嵐山の方向性を実際利用している方からの声を交えながら、町民に伝えることで徐々に理解されていくのではないか。伝え方が重要になると思う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・他の自治体でも同様であるが、会議に参加された方は意識が変化するし、高まっていく。でも大多数の方は参加していないのでギャップが生まれる。ギャップに悩むことは理解する。

ここに参加した人たちが一定の議論をして、提案する。そこから先は、行政がどうやって活用していくかである。確かにすべての町民の声を聞くことは難しい。

しかし、事業を進める中で、これまでは一部の人（関係者）の声しか聞けなかったものを普段関わっていない方々の声が聞けるという今回の手法は行政にとっても大きいと思う。これを踏まえ、どう判断するかは町や議会の責任である。

・ここに参加した皆さんには、周りの人に伝えて頂きたい。事実ではない話が独り歩きすることは多々ある。その中で今回はデータや事実に基づく議論を進めてきたので、皆さんにも広めていただきたい。まさに、提案５で示すとおり、どう伝えるかである。

【ここまでの議論の振り返り】

○提案１

・コンセプト、ターゲットについて、運営側に回るとなると観光視点が強く出てしまうので、当事者として関わるという表現の方が、この会議での意見を踏まえたものになる。

・メインターゲットという表現では、二者択一になってしまうので、ターゲットごとにやり方を変えることが必要ではないか。情報の伝え方についても、子育て世代は自分たちで情報を取るので、行政が情報を出すのは、高齢者世代で良いのではないか。メインという表現を使わなくても良いのではないか。ただし、ターゲットとしてどこを対象にするか、ターゲットを明確にすることは大切である。

・コンセプトについては、要素の掛け合わせ（最も晴天の多いスキー場、たき火、グランピング、ドッグランなど）、キーワードを使ってはどうか。

・将来的なビジョンは、とても大切であり、いつまでにどのくらいの人に来てもらうかの目標を設定し、そのためにどのくらいの投資をするか。これらが示されることで、会議でのアイデアも生かされるのではないか。

○提案２

・利用目的の多様化、集客については、子どもの視点が重要になってくる。例えばスキー部だけが来るのではなく、レクリエーション視点でのレジャーを絡めた合宿やゼミの受け入れなども考えられるのではないか。これは受け身ではなく、働きかけが必要であり、どういった物が売りになるかである。

・夏の行事（学校の授業）などで使えないか。

・子どもの見守りについては、明確に位置付けてしますとリスクの問題が生じる。

○提案３

・魅力の再発見と資源の再活用について、最も意見が多かったのは、展望台。360度のパノラマで見られるのは珍しいので、もう少し工夫ができないか。積極的にPRする（看板設置など）場合、集客への対応を踏まえたアクセス（林道）改善が必要である。

・夏のスキーゲレンデの活用について、牧場エリアを一部開放しながら、アクティビティを実施したり、それに併せて、リフトを運行できないか。

○提案４

・稼げる施設、事業の継続性について、老朽化をどう解消していくのか。如何に寂れた感を無くすかを考えた方が良い。寂れた感が最も現れているのが「宿舎」である。

・施設を改修するには、経営状況（財政視点）を踏まえながら、どのように収益を上げていくかを考えていかなければならない。ネーミングライツなど企業協賛による収益増なども考えてはどうか。

・ドッグラン有料化についての意見は多いが、ドッグランのスペースを有料化するのではなく、ドッグランを呼び水に集客しながら、お金を落としてもらう考え方が良い。また、自然資源を活かしたアクティビティなど犬と一緒に楽しめるコンテンツを増やすのも良いのではないか。

○提案５

・情報発信について、本会議の委員は利用者の満足感を理解できるし、意識の変化は出てくるが、大多数の町民とのギャップが生じる。この事実をどう伝えていくか。この点は、行政サイドの大きな課題である。委員としては、この場で知り得た事実を周りに伝えてほしい。また、行政や議会には、ここでの意見を踏まえて最終判断してほしい。これらを繰り返すにより、住民との距離が縮まり、コミュニケーションが深まっていくと思う。住民とのコミュニケーションが重要である。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・最後に、毎回このグループでは、新嵐山スカイパークの施設は誰を目的にするのかを聞いてきた。どちらかを決めるのではなく、町民にも町外の人にも両方を目的とする施設である。ただし、それぞれのターゲットを明確にした上で「町民にはこのような事をする」「町外の人にはこのような事をする」というのが、このグループの意見の共有である。

ここは、重要なポイントとなるので、皆さんにご意見をいただきたい。

（委員４）

・外から来る人。

（委員３）

・町民。町民が年１回利用して、良いところを発信することが良いと思う。

（委員５）

・両方だと思う。「町民が愛せない場所は、外から来た人も愛せない」という発言を聞いたが、そのとおりと思った。当事者として関わりながら、外の人に伝えていくことで、行ってみたいと思うのではないか。

（委員７）

・町民。町民が好きだと思える場所になってほしい。

（委員６）

・両方だと思う。子どもたちを大事にしていきたいし、ペットを飼う方も増えているので。

（委員２）

・町民が来やすい施設を考えることで外から人も来ると思う。もう少し町民に視点を置いた動きをするのが良い。ただし、財政面を考えると、税金で全てを賄うのではなく、外から来る人もいることで施設が維持できる。外への視線は忘れず、まずは町民が行きやすい施設にすることで、外からも自然と人が来てくれるという考え方が大事だと思う。

（委員１）

・町民。ただし、財政を考えた時に、町民利用だけで賄いきれない部分を町外の人の利用で補う。

（コーディネーター 伊藤 氏）

・皆さんの意見は、町民も町外の人もどちらかが抜けてもダメという事である。町民に愛される施設であり、外の人は魅力に感じるということが、一つのコンセプトとして、このグループの意見としたい。

【その他、追加意見】

・提案２　学割の検討。Amazonの子ども応援プログラムの活用。

・提案３　コロポックル伝説（コロポックルの史跡）活用の検討。

・提案４　ソフト面の充実（ホスピタリティの向上）。

以上